

平成28年7月10日

愛知県上海産業情報センター
余語 克昭

一般調査報告書
浙江省平湖経済技術開発区について

浙江省（省都：杭州市）は、中国の東南部、華東地域の長江デルタ地帯に位置し、北東部は中国最大都市で経済、金融、情報の中心である上海市、西は安徽省および江西省、南部は福建省に隣接し、東部は東シナ海に面しています。

省内最大の河川である銭塘江が流入する杭州湾一帯は、古来より交易で栄えた土地柄で、現在においても、中国の沿海諸省の中でも、最も先進的な省のひとつとなっています。

同省には、48社の愛知県企業が、64拠点に進出（平成26年12月末現在/あいち産業振興機構調べ）しており、ビジネスを展開されています。

同省内には多くの経済技術開発区があり、日系を含め多数の外資系企業が立地していますが、その中で、平湖市にある「平湖経済技術開発区」を訪問しましたので、ご紹介したいと思います。

1 平湖市について

平湖市は、浙江省北部に位置し、東は上海市と隣接しています。人口は約76万人で、年間平均気温は15.7℃と温暖な亜熱帯モンスーン気候で、日本人にとっても比較的暮らしやすい気候であると言えるかと思います。現在、約1,000人の日本人が暮らし、約40軒の日本料理店もあるそうです。平湖の歴史は非常に古く、当地の遺跡の出土品からは、六千年前にはこの土地で人々が生活していたことが認められるそうです。漢の時代には当湖という湖だったそうで、その後、湖が涸れ、凹んだ部分が平らになり、この地方が「平湖」と名付けられたとのこと。

1988年には国務院より沿海経済開発区と認可され、2005年には国家統計局公布の総合評価で全国県域経済基本競争力トップ100の28位にランクインするなど、近年、非常に経済発展が目覚ましい地域です。

2 平湖経済技術開発区について

次に、平湖経済技術開発区についてご紹介します。

(1) 沿革・概要

1996年に設立、2007年7月に省級経済開発区として認可されました。その後、2013年1月に国家級経済技術開発区に認可されました。約1,000社が入居

し、うち外資系企業は約300社が立地しています。日系企業は平湖市内に約200社進出していますが、その半数強が同開発区に立地しています。開発区への進出外資系企業における日系企業のシェアは、投資額比率で約6割とのこと。現在、愛知県からは5社の企業が進出され、事業展開をされています。



同経済開発区へは、最近では、自動車部品関連、電機器械関連を中心に、ドイツ、アメリカからの投資が増えているそうです。欧米系企業は、まず上海への進出を検討することが多いものの、コスト、土地確保、土地使用期限（上海は20年程度、平湖は50年）等の条件から平湖に目が向くパターンが多いとのこと。

また、韓国系企業では、POSCO、サムスンなど大手製造業が進出されていますが、ここ数年は、輸入制限の強化に伴う現地生産へのシフトを進めるため、韓国系化粧品メーカーの進出が続いているそうです。

(2) 交通アクセス

平湖市は、上海、杭州、蘇州、寧波の中央に位置し、各都市とも車で1時間程度という好立地であり、開発区から約5 kmに位置する滬杭高速鉄道「嘉善南駅」を利用すれば、上海虹橋駅まで約20～30分程度で移動することができます。

☆車を利用した場合の各地からのおおよその距離、時間

各都市	上海	杭州	蘇州	寧波
距離 (k m)	90	115	120	130
所要時間 (分)	60	70	70	100

空 港	上海虹橋空港	上海浦東空港	杭州蕭山空港
距離 (k m)	72	100	120
所要時間 (分)	50	70	80

上記のように、日系進出企業の多い蘇州・杭州や上海からちょうど中間に位置し、物流や人の行き来がしやすい、非常に利便性の高い位置にあると言えます。今回、大手の取引先の蘇州への進出に伴って現地へ進出されて来られたという自動車関係のサプライヤー企業様へも訪問させていただき、お話を伺いましたが、当地へ拠点を設置された理由は、「蘇州へ近く、しかし程よく離れているのでワーカー雇用の競合を避けることができ、かつ他の土地への便も良いこと」を挙げられました。

また昨今、特に食品産業等においては、上海という一大消費地に近いというアクセスの良さをメリットと捉え、上海に拠点を構えていた企業の移転も増えてきているとの事でした。

(3) 特色、産業構造

平湖経済技術開発区は、光機電産業（電子電機・自動車部品・機械製造）と健康産業（食品、バイオ医薬、化粧品、健康食品産業）を柱産業とし、それらの産業に特化した「高技術産業園」「生物技術（食品）産業園」を設け、光ファイバー、機械加工、電子部品、バイオ医薬、食品・飲料といった分野の重点基地化を進めているとのことです。バイオ・食品産業に欠かせない充実した污水处理施設等も完備し、電力資源も含め、盤石な生産インフラを構築しています。

進出する上で、また事業活動を展開していく中で、開発区のサポート体制も、非常に重要なポイントであると言えます。平湖経済技術開発区管理委員会には、日本語人材が8名在籍し、日系企業へのサポートを行っています。

(4) その他

平湖市内には人材サービスセンターや各種学校もあり、比較的募集・人員確保は容易とのことでしたが、現地に進出された企業へのヒアリングでは、各社ともワーカーの定着率に課題意識を持ち、向上のための取り組みをされている点が印象的でした。これは当地域だけではなく、中国全体において常々課題とされることの多い問題ですが、地方からの出稼ぎワーカーが春節休み明けに戻ってこないという課題が、やはり当地でも少なからずあるようです。昨今は、ワーカーの故郷である内陸部においても、企業進出による工場や第三次産業等、若い人の仕事先が増えたことも一因であるようで、各社とも、ワーカーの定着のため、社員教育の徹底や、ボーナス支給時期の調整（2回に分けて支給するなど）、工夫を凝らしているとのことでした。

また直近の話題としては、同省杭州市で9月4、5日に開催が予定されて

いるG20（20カ国・地域首脳会合）による前後期間の物流停止や工場の稼働調整への対応のため、既に生産調整を開始しているというお話もありました。2014年11月の「アジア太平洋経済協力会議（APEC）」の際、開催地の北京市周辺の工場の操業停止や車両規制が行われ、青空が広がったという報道も記憶に残っていらっしゃる方も多いかと思いますが、今回のG20においても、交通規制や操業停止を含め、環境対策面で特に企業活動に制限・規制があるようです。

3 最後に

実際に進出を検討される際には、投資環境はもちろん、現地へ訪れて、様々な環境についても確認されることが大切です。

本稿には、経済開発区に進出するにあたっての諸費用や優遇施策、詳細なインフラ設備等、案件の規模や時期による変動の恐れのある情報は記載しておりませんが、中国における事業展開をお考えの際には、本県上海事務所へ、お気軽にお問い合わせをいただければと思います。

上海産業情報センターでは、今後も引き続き中国の経済開発区について、情報提供していきたいと思っております。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。